

1. 60分のできる実践活動検討 ~事例からつながりを考える~

このコーナーでは、毎号皆さんに身近な事例を掲載していきます。第3号では、地区（支部・支会）社会福祉協議会（以下、「地区社協」という。）との関わり方と、地域住民との関わり方について取り上げましたので、各設問（STEP）に沿って、皆さんで事例について話し合ってみましょう。

また、事前に別紙「事例検討の手順（創刊号時に配布）」を参考にして進めてみましょう。

事例 1

テーマ

地区社協とのより良き関わり方とは？

地域福祉を推進するうえで、地区社協と連携していくことはこれからも大切であるといえます。そのような中、以下のような事例の場合は、どのように関わり合っていくべきだと考えますか？

これまでのご自身の体験を振り返りながら、話し合ってみましょう。そして、これから皆さんの民児協（民生委員）と地区社協とのより良き関わり方についても、話し合ってみましょう。

私（Aさん）は、今年で3期（8年）目になる民生委員です。日常的にも地区社協と、かなり頻繁に様々な場面で連携しています。

たとえば、地区社協の役員としての活動から始まり、地区社協主催の高齢者サロンや子育てサロン、年1度の敬老事業、地域の見守り活動や研修会の開催補助、福祉まつりの運営や共同募金活動、配食（お弁当の配布）活動も担っています。

地区社協活動に参加することは、住民の方と直接ふれあうことができるので、大変楽しいことですし、やりがいも感じています。また、地域福祉の向上を目指すうえでは、地区社協との連携が大切なことも理解しているつもりです。

ただ、結果として、月に10日以上は地区社協活動に関わっており、体力的にも追いつかないことが多くなってきました。また、個別訪問等に時間を割くことができない時もあり、「民生委員として委嘱を受けるといことは、どういうことなのだろうか？」という思いを抱きながら活動している現在です。

そうはいつでも、地区社協役員でもある立場上、「民生委員さんの協力がある地区社協活動ですよ」といわれると、なかなか断ったりもできず……。地区社協とのより良き関わり方について思案しているところです。また、地区社協の構成メンバーの大半が民生委員ということもあり、地区社協のあり方についても悩みどころです。